

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作情報（第11号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第11号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R4 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R4 (hr)	平年比 (%)
7月	1	25.4	28.7	3.3	29.2	33.5	4.3	22.4	25.2	2.8	90.3	16.5	18	16.3	25.6	157
	2	26.1	28.5	2.4	30.1	33.0	2.9	23.0	25.2	2.2	83.2	14.5	17	20.3	32.7	161
	3	26.7	28.1	1.4	30.9	31.5	0.6	23.5	25.2	1.7	61.9	23.0	37	24.2	14.1	58
	4	27.3	27.1	-0.2	31.8	31.0	-0.8	23.9	23.8	-0.1	43.1	129.5	300	28.0	12.3	44
	5	27.7	27.4	-0.3	32.5	31.2	-1.3	24.2	23.8	-0.4	36.2	5.0	14	31.4	29.9	95
	6	28.1	29.9	1.8	33.0	35.3	2.3	24.5	25.6	1.1	39.2	1.0	3	41.0	51.8	126

○7月6半月の平均気温は、平年に比べて1.8℃ほど高く推移した。また、まとまった降雨等もなく多照となった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：8月2日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/18 移植 武雄市橋町	本年値	88.8	353	11.8	38.8	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年より高く、茎数は平年より少ない。 主幹出葉数は平年より0.5葉少ない。 ※幼穂形成始期7月26日頃 ※幼穂長 22mm、葉耳間長 -15cm ※葉耳間長からみた出穂予想日は8月17日頃。 葉色は平年より濃い。
	平年値	84.5	377	12.3	35.7	
	平年比	105	94	-0.5	+3.1	
さかびより 6/23 移植 武雄市橋町	本年値	67.1	416	11.0	41.5	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年並み、茎数は平年より少ない。 主稈出葉数は平年より0.6葉少ない。 葉色は平年より濃い。 ※節間長 3~4mm 幼穂未確認
	平年値	67.4	443	11.6	39.0	
	平年比	100	94	-0.6	+2.5	

※夢しずくおよびさかびよりの平年値はH21~R3の平均値。 耕種概要は稲作情報第9号参照

3. 管内の生育状況（8月2日時点）

1) 夢しずく（普通期）：現在、穂孕期である。7月中旬の曇天の影響を受けて、全般的に草丈は高い。

《参考》管内における夢しずく生育状況：8/2 時点

移植時期（市町）	生育ステージ	備考
6/12 移植（江北町）	穂孕期	葉耳間長 +3cm

2) ヒノヒカリ・さがびより：穂首分化期～幼穂形成期始期である。

《参考》管内におけるヒノヒカリ・さがびより生育状況：8/3時点

移植時期（市町）	生育ステージ	備考
さがびより 6/20 移植（白石町）	穂首分化期～ 幼穂形成始期期	節間長 5 mm 幼穂未確認
ヒノヒカリ 6/20 移植（白石町）	まもなく 幼穂形成始期	節間長 20 mm 幼穂長 0.5 mm

4. 今後の管理

(1) 夢しずく（普通期）

○現在、穂孕期である。

- ・幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期である。特に穂孕み期から穂揃期（8月1日～8月20日）は浅水管理とする。
- ・初期生育量が十分に確保できずに、幼穂形成期以降草丈が伸長しうっぺいした圃場を散見する。そのような圃場では紋枯病を確認しているの、早期防除に努める。

(2) 普通期水稻

○現在、まもなく幼穂形成始期である。

7月中旬の曇天の影響を受けて、草丈が高く葉色が濃くうっぺいした圃場を散見する。

そのような圃場では、「葉いもち病」の病斑を確認しているの、穂肥の施用については、下記の診断基準に基づいて適期適量施用する。

①ヒノヒカリ

○6月下旬に移植されたヒノヒカリは、まもなく幼穂形成始期を迎える。

下記の診断基準により穂肥診断を必ず行い、適期適量の施用につなげる。

【表1 ヒノヒカリの穂肥診断基準】

草丈 cm 幼穂形成始期時	葉 色		穂肥施用時期			
	群 落	SPAD	出穂前	幼穂長	穂肥施用量 (N成分)	
80 cm 以下	薄い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1～2mm	3.0kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20 日	3～5mm	3.0kg/10a
	濃い	3.5～3.8	38～39	16 日	5～15mm	2.5kg/10a
	濃い	3.8 以上	40 以上	15 日	15～30mm	1.0kg/10a
80 cm 以上	薄い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1～2mm	2.5kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20 日	3～5mm	2.5kg/10a
	濃い	3.5 以上	38 以上	穂肥は施用しない		

②さがびより

穂肥の施用時期は、幼穂長10mmが基準となる。

幼穂長5mm以上になったことを確認してから、下表の診断基準により穂肥を施用する。

【表2 さがびよりの穂肥診断基準】

	幼穂形成始期の 草丈cm	葉 色		幼穂長	出穂前 日数	施用量 N成分kg/10a
		群 落	SPAD			
穂肥診断時	75 cm 以下 (標準)	2.5 以下	33 以下	5ミリ	20～18日	2.5kg
		3.0	33-37	10ミリ	18日	2.0kg
		3.5	37-38	15ミリ	16日	1.0kg
	75 cm～ 80 cm	3.8 以上	39 以上	施用しない		
		3.0 以下	36 以下	10ミリ～15ミリ	18～16日	1.5kg
	80 cm 以上	3.0 以上	37 以上	施用しない		
			施用しない			

(3) 病害虫対策

1) いもち病

- ・ **葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を徹底する**

発生が多いと予想される場合（上位3葉に葉いもち病の病斑を確認した時）には穂前中期にも防除を行う。

薬剤の使用にあたっては、使用時期や回数等の農薬の登録情報に注意する。

- ・ 圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。

- ・ **葉色が濃い圃場で、葉いもち病の病斑を確認している。**

- ・ 窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理を行なう。

- ・ BLASTAM 情報は下表参照。

BLASTAM（ブラスタム）は、いもち病菌の感染に適した条件が表れたかを判定するモデルである。

ブラスタムで好適条件が現れた場合、約1週間後からいもち病の初発あるいは病斑数が急激に増加することが予測されるので注意する。



葉いもち病の病斑
葉色が濃い圃場にて確認

BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の出現状況

佐賀県農業技術防除センターHPより

7月

	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日
白石	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伊万里	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-

1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温は20℃未満)

2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温は25℃以上)

3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温は15～25℃の範囲外)

4: 準好適条件(湿潤時間は湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)

●: 好適条件(湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)

—: 好適条件の出現なし

?: 判定不能

2) ウンカ類

- ・ 本年は、6月23～25日頃、7月8日頃、7月19日頃にトビロウンカの飛来が確認されている。
- ・ 8月2日巡回調査結果は表3参照。また、セジロウンカ、トビロウンカの誘殺状況については表4参照。最新データは、[佐賀県農業技術防除センターHP](#)を参照する。
- ・ 今後の飛来状況や圃場の発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。

表3 管内におけるウンカ類の払い落とし調査(R4)

調査日	セジロウンカ		トビロウンカ		ヒメビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
8月2日							
6月12日移植	0	0	0	0	4	0	夢しづく(江北町)
6月18日移植	25	0	0	0	18	2	夢しづく(江北町)※ゼクサロン系無施用
6月18日移植	0	0	0	0	0	0	夢しづく情報田
6月20日移植	0	0	0	0	2	1	さがびより(白石町新拓)
6月22日移植	1	0	0	0	6	0	さがびより(武雄市橋町)
6月23日移植	0	0	0	0	0	1	さがびより情報田

25株払落とし総数

表4 海外飛来性害虫ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況

	トビイロウンカ				セジロウンカ				コブノメイガ			
	佐賀県		長崎県		佐賀県		長崎県		佐賀県			長崎県
	佐賀市	嬉野	諫早	ネット	佐賀市	嬉野	諫早	ネット	佐賀市	白石	武雄	諫早
	ネット	ライト	ライト	ネット	ネット	ライト	ライト	ネット	トラップ	トラップ	トラップ	トラップ
6/20	0	0	0	0	0	4	0	0	0			1
6/21	0	0	0	0	2	0	11	0	0	0	0	0
6/22	0	2	0	0	5	1	1	1	0			0
6/23	1	0	0	0	4	0	0	0	0			0
6/24	1	7	0	0	3	2	1	2	-	0	0	0
6/25		41	0	0		18	3	1	0			2
6/26	0	1	0	0	2	2	0	0	0			0
6/27	0	65	0	0	1	8	0	0	0			0
6/28	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0
6/29	0	0	0	0	0	0	1	0	0			0
6/30	0	0	0	0	0	0	0	0	0			1
7/1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
7/2	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0
7/3	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
7/4	0	0	0	0	0	0	0	0	0			1
7/5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/6	0	1	0	0	0	0	0	0	0			0
7/7	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
7/8	0	36	0	0	0	71	5	0	0	0	0	0
7/9	-	2	0	0	-	9	3	0	-	0	0	0
7/10	0	1	0	0	0	1	0	0	0			0
7/11	0	1	0	0	0	41	0	0	0			0
7/12	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1
7/13	0	0	0	0	0	4	2	0	0			1
7/14	0	0	0	0	1	9	3	0	0			1
7/15	0	5	0	0	0	10	9	0	0			3
7/16	0	7	0	0	0	4	16	1	0	0	0	0
7/17	0	4	0	0	0	2	8	0	0			5
7/18	0	2	0	0	0	1	1	0	0			1
7/19	0	113	5	0	3	74	17	0	0	0	4	1
7/20	1	1	0	0	2	50	28	0	0	0	0	0
7/21	0	2			34	19			0			
7/22	0	0			0	9			1			
7/23	0	0			0	24			0	0	2	
7/24	0	2			1	894			0			
7/25		0				9						
7/26												

3) 斑点米カメムシ

・出穂15日前までの畦畔除草は、耕種的防除の観点から効果的である。

カメムシはイネ科雑草を好むことから畦畔だけでなく圃場内に発生している雑草の除草も併せて行うよう努める。

畦畔を100m歩いて、カメムシが3頭いたら、要注意である。



エノログサやヒエが多発している畦畔はカメムシの住処となっている

4) 紋枯病

・幼穂形成期以降は、各品種とも病気に対する抵抗力が弱まる。今後気温が高くなることから、紋枯病が一気に進展する可能性があるため発生には十分注意する。

・病斑が上位葉の葉鞘に進展する前の防除が効果的である。

(液剤、粉剤の場合は出穂10日～20日前の防除を目安とする)



紋枯病

令和4年産 水稲作付期間気象図
アメダス観測値(白石)

